

## 第1回「決戦！小説大賞」受賞のことば

佐藤巖太郎

小学校時代の四年間を武田信玄公ゆかりの山梨県甲府市で過ごしました。数年前に訪れた武田神社の風景は、子どもの時に初詣でお参りした頃とは、大きく様変わりしていました。空調完備の大型バスの列。言葉の通じない外国人観光客の団体。枚数を気にすることなくデジカメのシャッターを押す人々……。

私が購入した御札(おふだ)に興味を示した黒人女性の方から、それは何だ、と声をかけられ、説明に困ったのを思い出します(胸の十字架のネックレスに気づき、日本人にとってのクロスのようなもの、と拙い英語で答えたところ、なんとか通じたようでした)。

私の生きている間の変化だけでも、隔世の感があります。まして戦国の世と今とでは、文化も価値観もかけ離れているでしょう。とくに勝者と敗者とを生み出す合戦に関わる人々の心情を、平和な世に正しく理解できているのか疑問もあります。当時の人が伝えようとして伝わらなかった事実や、間違った内容で伝わってしまった事柄もあると思います。

その長い年月の変化にもかかわらず、山本勘助や武田信玄は人々に愛され、物語として伝えられ続けてきました。山本勘助は実在しなかったとする議論もいまだにあるようですが、さまざまな形に姿を変えながらも愛され続けた事実自体は、すでに本物の歴史になっています。この国に生きる人の琴線に触れるものがあるからこそ、変化に耐え一貫して伝えられ続けてきたのだと思います。

このたび山本勘助を主人公とする小説で、新しく創設された賞に選出いただくことになりました。選んでくださった編集部の皆様と関係者の皆様に感謝申し上げます。そして今後も語られ続けるであろう山本勘助と、もちろん武田信玄公にも……。本当にありがとうございました。



佐藤巖太郎(さとう・がんたろう)

1962年福島県生まれ。中央大学法学部卒業。

2011年「夢幻の扉」で第91回オール讀物新人賞を受賞し、デビュー。

2016年、本作収録の「啄木鳥」で第1回「決戦！小説大賞」を受賞。